



学校だより

11月号

横浜市立東本郷小学校
令和4年10月31日

ひとにやさしくありがとうの心で がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひがほんの子

子どもたちの世界を共有する

学校長 堂腰 康博

「校長先生、来て来てっ。虹が出てる！」あいさつを交わして校門をくぐった2年生たちが、駆け足で戻ってきました。「雨上がりでもないのに、ほんとに？」そう返すと、空がよく見える場所まで私を連れていってくれました。「ほら、あの雲きれいでしょ。」指さす方向に目をやると、確かに雲が紫や緑、ピンクの色でうっすらとやさしく、虹のような色をまとっていました。それは、太陽の近くを通りかかった薄雲が虹のように見える「彩雲」という現象でした。子どもたちは、馴染みのあるアーチ状の帯やその根元を一生懸命探していましたが、「空にはいろんな虹色があるんだね。」と納得していました。わたしも同じ目線になって空を眺め、一人ひとりが不思議と感じているその瞬間に立ち会えていることを楽しんでいました。すると誰からともなく歌が始まりました。毎日教室で歌っている今月の歌「虹」という曲です。歌声を合わせることで、今の楽しい気持ちをみんなでいっしょに表現する姿はとても素敵でした。

子どもたちが歌ってくれた「虹」の歌詞の通り、翌28日の1年生の「こどもの国」遠足は、ぽかぽか陽気に恵まれました。広い園内ですが、到着後は牧場やこども動物園を目指し、間近でたくさんの動物を観、匂いを感じ、鳴き声を聴き、触れ合い、五感をいっぱい使って楽しむことができました。小さなケースに入っているモルモットを膝元において、優しく撫でる体験では、「かわいい」「あったかい」「ちょっと怖い」等、反応はそれぞれでしたが、「動物となかよし」のテーマのもと、みんなで楽しい時間を過ごすことができました。

お昼ごはんは、こども遊牧場にシートを広げ、友だち同士の顔を見ながらいただきました。

「あー、食べちゃうのがもったいないよう…」と手作りのお弁当を見せ合い、時々おしゃべりもしながら、いつもと違ってゆっくりと味わいました。遠足ですから、おやつもあります。クラスの間々と食べるお菓子は、格別のおいしさだったようです。

最後は自由遊びの時間。原っぱと山しかありませんが、走ったり、登ったり、転がったりとみんなで楽しく遊んでいます。各担任は、子どもが何をし、何を面白がっているのかを読みとったり、声を聴いたりして、子どもの心もちに思いを馳せ、楽しんでいるのを中断しないよう、準備していた遊びをやめることにしました。

「ねえ、見て！」と反応を求められたときだけ「面白いね」「すごいね」と関わるようにして、「もっとやってみたい」を子どもたちが自分で決められるように、意図をもって見守っている姿も印象的でした。with コロナが続く中、子どもたちが今求めているものは何なのか、学校を、教室を離れることで見えてくるものがたくさんあった1年生の遠足でした。

